

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。

発生予察特殊報第 2 号

病 害 虫 名 メボウキ (バジル) ベと病
 Peronospora belbahrii Thines
作 物 名 メボウキ (バジル)
発 生 地 域 京都市の一部

1 発生経過

- (1) 令和 4 年 9 月、京都市内の露地栽培のバジルで、葉の褐変、葉枯れ症状が発生し、葉裏に黒褐色から灰色の菌叢が認められた。採取した株を農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、メボウキ (バジル) ベと病と同定された。
- (2) 本病は、国内では平成 26 年以降、茨城県、千葉県、静岡県、兵庫県、神奈川県、大分県、沖縄県、愛知県、栃木県、和歌山県等で発生が確認されており、京都府内での確認は初めてである。

2 病徴

- (1) はじめに葉が黄化症状を示し (写真 1)、裏面に灰白色で霜状の菌叢を生じる (写真 2)。
- (2) 進展すると葉裏全体が黒から灰褐色の菌叢で覆われ、葉の褐変 (写真 3) が発生して容易に落葉し始め、やがて枯死する。

3 病原菌の特徴と伝染

- (1) 罹病葉を顕微鏡で観察すると、5~7 回分枝した分生子柄と垂球形の分生子が観察される (写真 4)。
- (2) 発病株及び残さが伝染源で、分生子により空気感染する。なお、海外では種子伝染するとの報告がある。
- (3) 宿主はシソ科に限られるとされ、メボウキ属の複数種、コリウス属及びカワミドリ属の一種とされている。

4 防除対策

- (1) 発病株や残さは伝染源となるため、ほ場外に持ち出し、適正に処分する。
- (2) 多湿条件で発病が助長されるため、密植を避け、通風・排水・採光を良くし、施設では換気を行い湿度が高すぎないようにする。
- (3) 本病に登録のある薬剤 (表 1) を用いて、葉全体に十分薬液が付着するように散布する。



写真1 罹病株



写真2 葉裏の菌叢 (神戸植物防疫所原図)



写真3 葉表の褐変

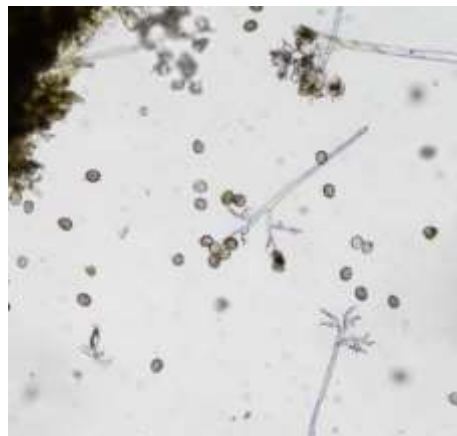


写真4 分生子と分生子柄

表1 バジルべと病に登録のある主な農薬(令和4年10月12日現在)

FRACコード ¹⁾	薬剤名	希釈倍率	散布液量	使用回数	使用時期	総使用回数
11(C3)	アミスター20フロアブル	2000倍	100～300L/10a	2回以内	収穫前日まで	2回以内
11(C3)/7(C2)	シグナムWDG	2000倍	100～300L/10a	2回以内	収穫3日前まで	2回以内
21(C4)	ランマンフロアブル	2000倍	100～300L/10a	2回以内	収穫3日前まで	2回以内
21(C4)/27(U)	ダイナモ顆粒水和剤	2000倍	100～300L/10a	2回以内	収穫3日前まで	2回以内
40(H5)	フェスティバル水和剤	2000倍	100～300L/10a	2回以内	収穫14日前まで	2回以内
40(H5)	レーバスフロアブル	2000倍	100～300L/10a	2回以内	収穫3日前まで	2回以内
49(F9)/40(H5)	オロンディスウルトラSC	2000倍	100～300L/10a	2回以内	収穫3日前まで	2回以内
M01(M)	ボルドー ²⁾	500～1000倍	100～300L/10a	-	-	-
M01(M)	Zボルドー ²⁾	500倍	100～300L/10a	-	-	-
M01(M)	クプロシールド ²⁾	1000～2000倍	100～300L/10a	-	-	-
M01(M)	クプロザートフロアブル ²⁾	1000～2000倍	100～300L/10a	-	-	-

1) 殺菌剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。

2) 野菜類での登録

<参考文献>

- (1) 内橋ら、メボウキ（バジル）べと病に対する粒状亜リン酸肥料の抑制効果、関西病虫研報(64)：89-97（2022年）
- (2) 鈴木杏子、最近話題となっている病害虫「メボウキ（バジル）べと病」、植物防疫所病害虫情報第111号（2017年）